

急な病気やけがの時の心強い味方、救急隊。その出動件数は、区内だけで1日平均40件(昨年実績)に上ります。ここでは、そんな鶴見消防署の救急隊に密着！救急搬送の実態から、私たちが知らない裏側まで取材してきました！

密着！ 鶴見救急隊

～あなたの知らない救急事情～

鶴見在住・M夫妻の場合



POINT

状況をはっきりと伝える
「火事か救急か」「場所(住所、目標となる建物)」「誰がどうしたか」「傷病の状況」「通報者の連絡先」などを、あわてずはっきりと伝えること



CHECK!

救急隊への指令
現場に一番近い救急隊をコンピューターが選び、出場指令が出る



CHECK!

救急隊は3人構成
救急救命士1人以上を含む3人が乗務。場合により、消防隊と連携することもある。また、消防隊にも救急隊員の有資格者が同乗している

情報・場所の確認

資器材の選定

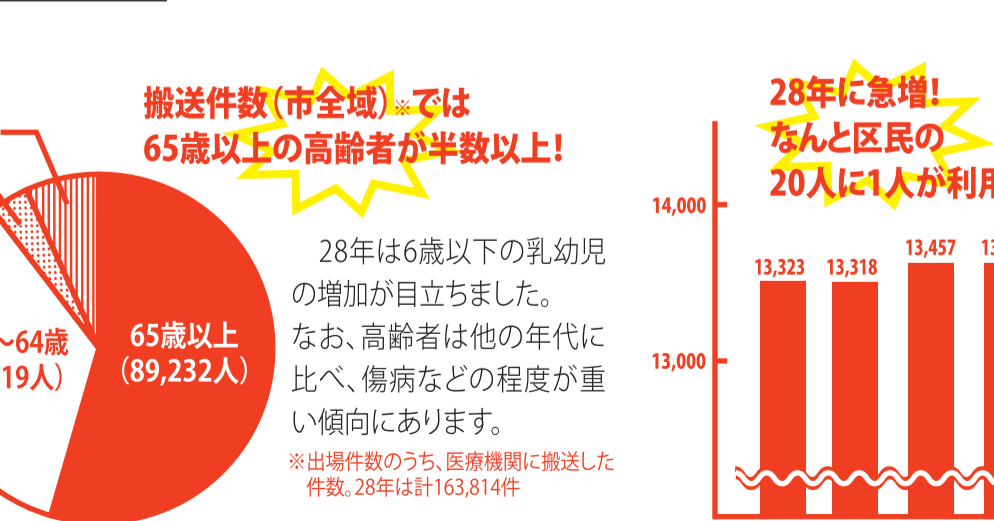
CHECK!

到着まで7分
通報～到着にかかる時間は平均約7分(28年・横浜市)



POINT

救急車はすぐに動かない!
車内収容後、救急車はその場にしばらく止まり、脈拍・血圧等の確認、本人や同乗者からの情報収集のほか、病院の選定(受け入れ可否の確認)を行う。病院をあらかじめ選定することで、より早く搬送できる



区内の出場件数は増加傾向。28年は約37分に1回出場している計算になります。その内訳は急病が約70%、次いで負傷(交通事故を除く)が約17%と続きます。出場件数は29年も昨年を上回るペースで増加し続けています。

冬の危険に備える

冬になると、道路上の水分が夜間の冷え込みで凍結し、滑りやすくなります。一度の転倒が大げがにつながることもあり、大変危険です。

1 冬の朝、凍った道で転倒し、骨折

対策
・滑りにくい靴を選び、足元に注意してゆっくり歩く
・雪の日やその後数日は、自転車の利用は避ける
・日陰は避けて歩く
・橋の上などの凍りやすい場所では、より慎重に

2 寒い日の夜、熱い湯船につかって気を失い溺れる

対策
・あらかじめ脱衣所や浴室を暖房器具で温め、温度差を少なくする
・蛇口でなくシャワーで湯を張り、浴室の気温を上げるのも有効
・気温が比較的高い日中に入浴する

3 お正月、餅がのどに詰まって呼吸困難に

対策
・のどに詰まりやすいものは小さく切る
・乳幼児や高齢者などの場合、目を離さない

4 電気ストーブにあたりながら居眠りし、熱傷に

対策
・温まったら電源をきり、つけっぱなしにしない
・電気毛布、アンカ等を使用して眠るときはタイマーを活用する
・使い捨てカイロは皮膚に直接貼らない

実録 こんな通報 困ります

実際に救急隊を悩ませた、困った通報を集めました。ここに紹介したのは、ほんの一部です。

- 今日、入院する予定なので連れて行って
- 腹痛で動けない…(と言いつつ、行くと玄関前でキャリアバック片手にスタンバイ)
- 子どもの具合が悪いけど、夕飯の準備で忙しい
- ヘルパーが来てくれないから代わりに来て
- 二日酔いが消えなくて…
- 病院で待つのが嫌だから搬送して

どうすべきか 悩んだら…

急な病気やけがで、「救急車を呼ぶべき?」「いま行ける病院・診療所はどこ?」など受診について悩んだら、下記までご相談ください。

横浜市救急相談センター

24時間年中無休
通常の通話料がかかります

☎ #7119
または☎222-7119

自動音声の流れたら

- ① 受診できる病院・診療所を知りたい ①を選択 医療機関案内
- ② 病院・診療所に行くか、救急車を呼ぶか迷っている ②を選択 看護師が答えます 救急電話相談

※薬の飲み方の質問や、現在かかっている病気の健康相談、セカンドオピニオン等についてはお受けできません
※この電話は診療の代替ではありません。ご自身の責任で医療機関の受診や救急車の利用を判断してください

☎ 医療局救急・災害医療担当 ☎671-2465 ☎664-3851

鶴見消防署から 119番通報する前に「本当に必要か」を考えてみてください

救急隊の出動件数は年々増加しています。その一方、救急搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状があります。症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」などと、救急車を呼ぶ人もいますが、現在、救急隊はフル稼働状態です。それらの通報が原因で、大げがや心筋梗塞(こうそく)などの重症者への対応が遅れてしまいます。119番通報をする前に一度、バスやタクシーなどを使って医療機関に行けないか、考えてみてください。その上で本当に必要なときは、ためらわずに呼んでください。

鶴見消防署救急担当 課長 村木 秀臣

もしものための準備

本人と意思の疎通がとれない場合、持病や緊急連絡先がわからずに、救急隊や医療機関が苦慮することがあります。緊急時に備えて、あらかじめ持病や主治医、緊急連絡先等をまとめておきましょう。右の2つのうちいずれかを利用すると便利です。

《イエローノート》

基本情報のほか、終末期の希望も記入できるのは医師作成ならでは。
☎ 鶴見区医師会 さわやか相談室 ☎503-1289

《救急医療情報キット》

民生委員・児童委員等の地域での見守り活動の際に、ひとり暮らしの高齢者等に配布。冷蔵庫に入れて保管します。
☎ 区役所事業企画担当 ☎510-1826